

【資料】

図書資料を活用した授業実践

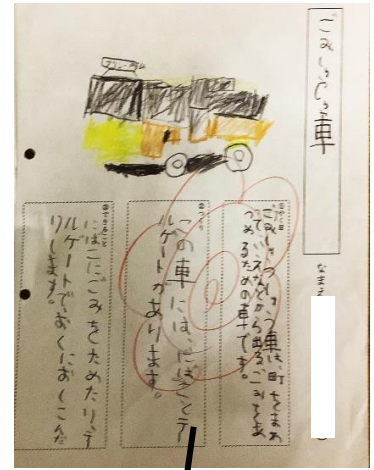
新潟市立万代長嶺小学校

学年	1年	教科	国語科	指導時期	11月
単元名	「のりものカード」をつくろう				
単元のねらい	乗り物の役目とつくりについて、好きな乗り物を選んで本や図鑑を使って調べる活動を通して、「のりものカード」を作ることができる。				
図書館活用のねらい	いろいろな乗り物の本を使って、児童が自由に読める環境をつくる。				
使用した資料	「はたらくじどう車 スーパーずかん」シリーズ 「のりものくらべ」シリーズ				

指導の実際

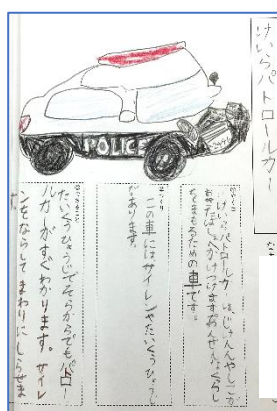
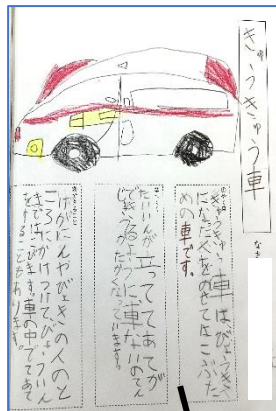
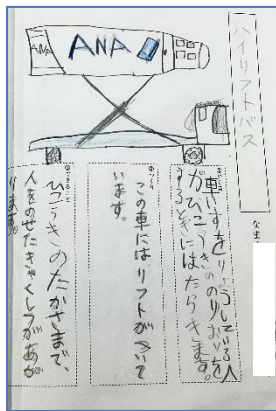
- ①「いろいろなふね」で学習した乗り物の「しごと」「つくり」について確かめ、自分で好きな乗り物を選んで「のりものカード」を作る見通しをもつ。
- ②「ごみ収集車」について、全員で同じ本を使って「しごと」と「つくり」を調べ、「のりものカード」を作る。
- ③本や図鑑を見て、自分の調べたい乗り物を選ぶ。
- ④⑤⑥調べたことを「のりものカード」に書く。

どののりものにしたの？

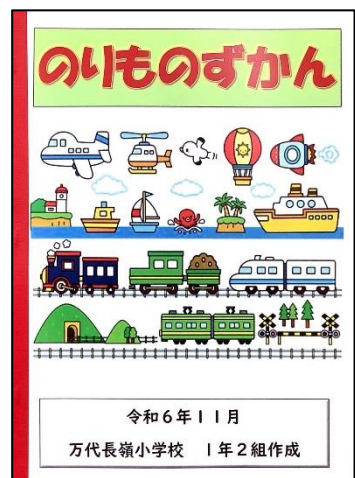


全員が同じ本で調べたごみ収集車の「のりものカード」

- ⑦各自が作った「のりものカード」を1冊にまとめ、「のりものずかん」を完成させる。



児童が作った実際の「のりものカード」



※完成した「のりものずかん」は、図書室に置いてもらい、誰でも自由に読める環境を作った。

学年	2年	教科	国語科	指導時期	7月
単元名	お気に入りの本をしょうかいしよう				
単元のねらい	読書に親しみ、いろいろな本があることを知って、友達に紹介しようとするともに、感じたことや分かったことを共有して、さらに読書の世界を広げようとする。				
図書館活用のねらい	いろいろな本があることを知り、自分の好きな分野の本や物語などを調べたり、書かれている内容をより理解して伝えたりしようとする。				
使用した資料	自分のお気に入りの本				
指導の実際	<p><指導の実際></p> <p>本単元の指導の流れは、次の通りである。</p>				

- ① これまでに読んだ本を振り返り、好きな本の種類とその理由を友達と伝え合う。

学習課題「お気に入りの本を知ってもらうためには、何をどう伝えたらいいのかな？」

- ② 学習課題についての見通しをもち、紹介メモの書き方を確かめる。
 ③ 「ミリーのすてきなぼうし」を読み、お話の面白さや好きなところを伝え合う。
 ④ 「ミリーのすてきなぼうし」の紹介メモを書く。
 ⑤ 自分の選んだ本について、本の紹介メモを書く。

まとめ「お気に入りの本のおもしろいところ、自分の好きなところを伝えるとよい」

- ⑥ 友達と本を紹介し合い、感想を伝え合う。
 図書館の活用は、単元の最初と最後に行った。最初から紹介したい本を決めている子もいたが、図書館で自分が紹介したい本を選ぶ時間を最初に設けた。単元の最後には、友達が紹介した本を探して読むために図書館を活用した。



<○成果と▲課題>

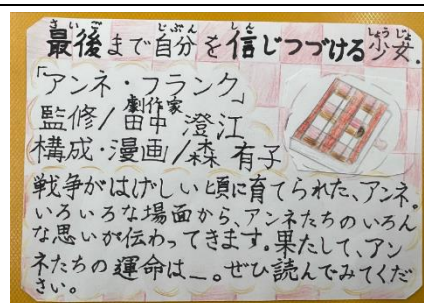
- 子どもたちは本が大好きで、読書量も100冊、200冊を超えている子が多いが、読む本が好きな分野に偏っている傾向もある。本単元を通じて、いつも自分が読んでいる分野の本だけでなく、様々な種類の本に触れることにつながった。
 ○ 人に伝えるためには、その本のどこが一番おもしろいところか、自分はどこが好きなのかを見つめ直す必要がある。いつもの読書よりも、より深く、お話の良さを考えて読み込もうとしていたり、書く前に自然に友達と交流し合ったりする場面が見られた。
 ▲ 紹介文を書くスキルには個人差があり、書き方に迷う子には個別の支援を行った。簡易的な紹介メモを用意するなど、個に応じた支援が必要である。

学年	3年	教科	国語科	指導時期	11月
単元名	道具のひみつ				
単元のねらい	調べたことを整理しながら、レポートを書くことができる。				
図書館活用のねらい	自分が調べてみたい身の回りの道具について知るために、その情報が載っている本を見つけることができる。				
使用した資料	道具の百科事典 それぞれの道具についての本 など				
指導の実際	<p>① 調べるものを決める ② 調べる 本やインターネットを使って詳しく調べ、分かったことをメモに書く。 ③ 調べたことを整理する 調べて分かったことを2～3つの見出しに分けて整理する。 ④ レポートを書く メモを基に、ロイロノートでレポートを書く。 ⑤ 読み合う 完成したレポートを読み合い、気付いたことを伝え合う。</p>				
	<p>セロハンテープのひみつ 3年1組</p> <p>1 調べた理由 物をなのおすとき、セロハンテープを使っているので調べたいと思いました。 2 調べ方 図書館で、本をさがして調べました。 3 調べて分かったこと (1) せかいで始めて作られたのは、1930年にアメリカで作られました。 (2) ねん着ざいの作り方 ①ゴムを40度で24時間あたためます。②ゴムを、10センチくらいにカットします。③ゴムをのぼしたり、つぶしたりして、寝ていきます。④カットして、かねつします。 ⑤タンクの中で、24時間おいて、ゴミを取りのぞいたら、かんせいです。 4 まとめ 昔、日本はかんせいさせるのにすごい時間がかかりました。セロハンテープを作ってくれたおかげでわたしたちは、物をなのおすことができるようになったことがわかりました。 調べるときに使った本「セロハンテープのひみつ」</p>				

学年	4年	教科	国語科	指導時期	7月
単元名	「本のポップや帯を作ろう」				
単元のねらい	ノンフィクションの本(文章)を読んで、自分が感じたことや考えたことをPOPにまとめることを通して、一人一人の感じ方が違うことに気付くことができる。				
図書館活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 主教材で学んだ「本の帯やPOPを作り方」を活用するため ノンフィクションやルポライターなどの種類の本を実際に読むため。 				
使用した資料	<ul style="list-style-type: none"> 帯やPOPづくりに必要な、おすすめの本(児童一人一人異なる) 				

指導の実際

- ① 本にはフィクション（絵本や物語）以外にも様々な種類（ノンフィクションやルポライターの本）があることを学ぶ。
- ② 実際に教科書に記載されているノンフィクションの話を紹介し、ノンフィクションに対する意欲を出す。
- ③ 図書館へ行き、図書室でノンフィクションがどこに分類・整理されているかを確認する。
- ④ 自分の気になるノンフィクションの本を選び、読む。
- ⑤ 相手に自分が読んだノンフィクションの本を紹介するPOPを作成する。
→自分が感じたことや考えたこと、本の内容を簡単にまとめる。
- ⑥ 全体に教師が紹介し、図書館に一定の期間掲示する。成果を教師が確認し、子どもたちに報告する。



学年	5年	教科	国語科	指導時期	11月
単元名	「文化を受け継ぐことについて考えよう」 主教材『和の文化を発信しよう』				
単元のねらい	和の文化について関心を持ち、本やインターネットを利用して調べる活動を通して、資料を活用しながらポスターを作り、発信することができる。				
図書館活用のねらい	児童が本を通じて、和の文化に幅広く触れることが大きなねらいである。これまでに知らなかった和の文化を知ることで、日本文化への興味や関心をより高め、くわしく調べたいと思う文化を見付けるきっかけにつなげたい。				
使用した資料	和の文化について書かれている本や辞典				

指導の実際

〈単元計画〉

- 1 説明文『和の文化を受けつぐ』の内容を想起し、筆者がどのような観点で和菓子の説明をしていたかを振り返る。
- 2 和の文化のポスターを作るときに気を付けることを確認し、和の文化にはどんなものがあるかを樹形図にまとめ、共有する。
- 3 自分がかわしく調べたい文化を決めて、本やインターネットを利用して調べる。
- 4・5 自分の選んだ和の文化を発信するポスターを作る。解説文を書く。
- 6 友達とポスターの解説文を読み合い、推敲する。完成したポスターを読み合い、感想を伝え合う。

〈活用の実際〉

和の文化に関わる言葉を集める学習では、これまでの知識や経験によって、思い付く言葉の量に差が見られた。和の文化と聞いて、いくつも関連する言葉が思い付く児童もいれば、身近に使ったことがある物の名前しか思い付かない児童もいた。そこで、本や図鑑を活用した。本を利用することで、和の文化に関わる言葉や写真に幅広く触れることができ、興味や関心が広がる児童の姿が見られた。ポスターの題材を決めるときは、新しく知った和の文化と自分の好きなことをつなげ、題材を選んでいる児童も多かった。また、本で知った内容をもとに、インターネットで題材のくわしい事柄や具体例を知ること、自分の伝えたいことを伝えるポスター作りにつながった。

〈成果〇と課題●〉

- 和の文化についての写真や言葉から、児童の興味・関心の高まりにつながった。
- 自分の経験と本で知った和の文化の知識をつなげて、くわしく調べようとする児童が多くいた。
- 本で和の文化を幅広く知ることにはつながったが、写真をもとに直感的に題材を選んだ児童も見られた。



【解説文】
テレビなどで「南部鉄器」の紹介や作り方を見て、職人の人達の手作業がすごいと考え、ポスターの題材に選びました。
まず、本で調べて見たところ、南部鉄器が生産されている盛岡は、砂鉄や磁鉄、粘土や川砂など、鉄器作りに必要な資源が豊富にあることを伝えたいと思いました。また、キャッチコピーの響きを良くしたいと思い、昔から俳句に使われている五七五で「盛岡の 自然の恵み 南部鉄器」にしました。
そして、インターネットで調べたところ、南部鉄器は数分も煎取でき、健康にいいと書かれていたので、「鉄分も摂取できるよ〜」というのをポスターに示しました。
写真は、南部鉄器の写真と、職人の手作業の写真を伝えたいと考え、南部鉄器の作っているところになりました。



【解説文】
本を読んでいて、越前焼の色が綺麗だと思ってポスターの題材に選びました。
越前焼の色は越前の土に炭粉を含んでいるのでこのような色になるそうです。
まず、なぜこのようなキャッチコピーにしたかという越前焼をインターネットで調べたら、平安後期からの歴史があったのでそのことを知って欲しいと知ってこのキャッチコピーにしました。
また、本で調べたら、「青ねば」「赤べと」「朱古土」を混ぜ合わせて焼くことで細かな土になるため、うすく焼き上げることが越前焼の特徴の一つだと分かりました。
そのことを伝えるために「他にはないうすさ」というキャッチコピーにしました。

学年	6年	教科	国語科	指導時期	5月中旬
単元名	公共図書館を活用しよう				
単元のねらい	「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくこと」に関わって、学校図書館だけでなく、公共図書館も利用できるようになる。				
図書館活用のねらい	公共図書館と学校図書館との違いを比較することで、公共図書館の特徴と利用場面を考えさせる。				
使用した資料	図書館司書作成のパワーポイントスライド 新潟市の図書館.ほんぽーと中央図書館< https://www.niigatacitylib.jp/?page_id=166 >				

指導の実際

【本時の展開】

1. 本時の課題を確認する
2. 公共図書館クイズ（図書館司書）
3. 利用できる資料やサービスを確認する「公共図書館と学校図書館の比較」
4. 地域の公共図書館で利用できる資料やサービスを確認、利用してみたい点を出し合う
5. 記録カードのしかたを知る
6. ふり返り（ロイロノートによる記述・提出）

図書館司書による解説とクイズを通して、公共図書館と学校図書館の違いについて学習した。地域にある公共図書館は、市内にある23カ所の図書館を統轄する図書館であることや蔵書数が学校図書館の45倍あることなど、驚くようなことをたくさん知ることができた。子ども達の振り返りから、「貸出し冊数が多いということは、様々な人が利用しているのではないか」、「公共図書館と学校図書館の違いを知って、自分でどちらに行くか決めて利用したい」など、学習を通して思考をさらに深めたり、図書館利用に対する意識を高めたりしている姿を見ることができた。

専門書	勉強スペース	英語で書かれた本	点字図書	公共図書館の資料・機器やサービス
もちよって大きくなって専門的なことを勉強したいと思った時	気分転換してちょっと静かな場所ですりたい時	英語をもっと勉強したいと思った時	点字を勉強して、点字の本を読みたいと思ったとき	利用したい場面

② あなたの地域の公共図書館にある資料・機器やサービスと、それを利用したい場面を書きましょう。	利用方法 ・本を読む、借りる、返す	サービス ・予約に話せる ・対面で貸し出し ・予約で貸し出し	違いとある資料・機器 ・授業のサポートをする ・蔵書の豊富さ ・教科書に載っている本など	① 学校図書館と公共図書館を比べてみよう。 学校図書館 公共図書館
---	----------------------	---	---	---

公共図書館の特徴と利用場面を振り返って、分かったこと、考えたことを振り返りましょう。

1 公共図書館を活用しよう

私は、今自分の必要な求めていることに応じて図書館を使い分けようと思いました。そう思った理由として、学校の図書館と公共図書館ではできないこととできることが違うからです。欲しい本、今求めている本が学校の図書館にある場合は、手軽だから公共図書館にわざわざ行かなくてもいいけど、もし学校の図書館になかったら公共図書館に行こうと思います。学校の図書館よりも公共図書館の方が本や資料が多いということで、私はそう考えました。

その他にも、おすすめの本を誰かに聞きたい。ネットじゃなく実際にアピールしてもらいたいと思った時、私は学校の図書館に行きます。知っている人もいるので個人的に学校の図書委員の人の方が聞きやすいです。なので今の気分や気持ちにもよって行く場所も変わってくると思います

これから休日に、本や資料を読むことも多くなると思います。今回の授業で学校の図書館と公共図書館の違いを知って、自分でどっちに行くか決めて図書館をもっと身近な場所に使いたいです。

